画入
右將山桂葉閃　六

吉野山独案内巻五 目録

吉野山独案内巻五

○妙高山安禅寺宝塔院とて伽藍あり右の方に多宝塔あり此塔は役行者権現の本地にて一刀三礼にて作り給ふ御長一丈の蔵王行者の御影をうつしをさめしとひく其の方に安置せり右の方に行者の母の像ありかの山と青根が峯といへり

金葉集　　　　　　　　顕昭法師
よしの川みなかみさしてたつねこしと青根と越や花の白露

風雅集　　　　　　　　源三位頼政
よしの川岩瀬の波によるはなや青根か峯に消る白波

青根かみね
安禅寺
たほうのたう

飯高山

柏奇
花の宿りさへ旅籠も禰て飯高山とふ以へ　和刕今井尾崎氏　光方

柏奇
雲にしらいふりの此みかさもりよ飯高山のあらけりて　大坂吉田氏　好治

饗食の膳ヶ飯高山乃花さかり　紀刕和哥山林氏　元朝

うへもるさ飯高山の花見かな　和刕柳本妹尾氏　仙水

さくやこのやえんかいざんの霞かれ　同今井大内氏　宗勝

たち〳〵たいさくや飯高山の花　同世関本氏　正長

安禅寺

花の色は誰も待ずや安禅寺　江戸住　紋言

地とすゝて杖あんぜんの花さかり　和刕轟五猪氏　正次

臘りすむ月のまえくや安禅寺　勢刕山田右跡　伊人

寶塔院

鶯の経よみくらし寶塔院　勢州山田古跡　伊人

青根峯

つゝかなり青根か峯や夏木立　勢州新居　知足

わけ入ば蔦乃若葉し青根かな　京中嶋氏　随流

時雨初て青根も末であらしかな　天満　宗貞

○寶塔院と三町ばかり東へ行て閑院の方二町
秘佛乃堂あり山の麓と二町程行て清浄
といふ名水あり此ほとりに西行庵室と
むすびけるよし乃跡に小堂を立て彼法師の像を

西行法師

とく〳〵と落る岩間(いはま)の苔清水(こけしみづ)くみほすほどもなき住居かな

○此(この)西行(さいぎやう)とく〳〵の苔清水と西行の瀧(たき)といふあり

西行法師

新古今

よし野山やがていでじと思ふ身を花ちりなばと人や待らん

同

よしの山去年(こぞ)のしをりの道かへてまだ見ぬかたの花を尋ん

同

家集

ながむるに梢の雲の花とみてそめし西へ誰か思はん

同

山人よよしのの奥のしるべせよ花も尋ん又思ひあり

ありあんどう
こけ清水
四方正面

奥院

花見も花なりや奥の院の御不和　吉野山岑田氏　徳源

いろはりやちるらむうゐの奥の院　和州今井田中氏　玄佑

愛染

愛染や弾にしやつかふ花軍　津志氏　無知

愛染をもしろくや花のさく向　和州今井宮寺　日田川徳應寺　汀覚

やかてさ男も愛染の猫か　堺山岩井氏　数可

四方正面

須弥山のからとそよ三山みえ四方正面　童沢

相寺吉

同

相寺とく

渤海せられ花もてに山にはおかまれしまふ四方正面　大坂平野氏　汀童

うかむそとり四方正面乃花さかり　和州八木上田氏　勝童

みかしてとくとくとくや花の梅　　和州丁吉枝津氏　守忠

西行庵室

花見しもしるしるし西行堂(さいぎやうだう)　　和州新木姓氏　保慶

行て出し西行その月夜かな　　高野山嶋田氏　山入

○安禅堂(あんぜんど)あり是より少し行ば青根が峯(あをねがだけ)あり此所より道二筋(ふたすぢ)ありひとつは西河(みかう)の瀧(たき)へゆく道なりひとつは山上(さんじやう)への本道なり是より山上までは八里余あつき年にも六月一日より七月まで参詣人精進(しやうじん)潔斎(けつさい)しての後のぼるなり

○釈迦(しやか)が嶽(たけ)一里余りそれは山鬼(さんぎ)出ると云不思議あるなり

役乃行者につかへし前鬼後鬼の末孫山伏にはじまり
大峯まうでも熊野をいハ七十二なびき三十二ケ
よしの霊あり秘所知れし事にありし
むかし峯中に大蛇すみしを醍醐の聖宝尊
師寛平七年より永治まてふとおん毎年七
月八日より金山園山乃先達入峯あるひ奉
安全乃御祈禱あり誠に尊き山なり

金葉集　　大峯にて　　僧正行尊

もろともにあはれとおもへ山桜花よりほかにしる人もなし

同　　　　前大僧正道昭

新拾遺
今ハ我らしき光の跡おこして又あらはるゝすゑの下道

○峯中にて蟷螂(たうらう)が岩屋(いはや)聖天(しやうでん)乃岩屋菊(きく)の岩屋蝙蝠(かうもり)乃岩屋笙(しやう)のいはやなどとて三百八十余のいはやありといへども秘和(ひしよ)なれバしるさず

笙(しやう)の岩屋(いはや)にて　前大僧正覚忠

千載集
宿(やど)りする岩屋ハ床(とこ)乃苔莚(こけむしろ)いく夜になりぬいねがてにして

同岩屋にて　日蔵上人

新古今
寂莫(じやくまく)の苔の岩屋ハしづけきに涙の雨のふらぬ日ぞなき

同岩屋にて　前大僧正良宗

新後拾遺
心とや又こもりけん雨露もりぬ岩屋乃つゆにぬれつゝ

さんじやうみち
あとりがだけ

峯入は空色よりもちかたの振袖かな　天満　西翁

峯入や笈追とつて肩にかけ　和州今井森田氏　顕真

峯入や若僧あつしわらひの垣　日下大門氏　家勝

峯よ入く唄道にのむや花の雨　勢州山田　赤海

峯入や山下陰にこむかりの貝　堺梅本氏　定之

桜さく寺山依や暁のこゑ　日池嶋氏　成之

峯入やこやいとゝめぬ後鬼前鬼　河州柏原三田氏　浄久

大峯

大峯に春の先達や鶴ケすゝ　京大村氏　可全

大峯や天狗だをしも花の雨　和州今井今西氏　正忠

釈迦嶽

花の雲ハ志やくせんさんり釈迦嶽　京　良徳

ちりしむ花や孫子への釈迦如来　　桑名樋口氏　兼頼

釈迦如来句あるにそこか花の風　　和州郡山　見流

月花や天上天下(てんじやうてんげ)釈迦如来　　月下田住　葺葉

釈迦如来やまのたて万(えう)の蓮花下　　堺　以尊

螢岩屋

螢乃岩屋とてのひかりやきし桜　　吉野下市塩屋氏　閑花

花に縁(えん)乃あるきまゝ生の岩屋かな　　吉野山宝珊坊　栄祐

吟(ぎん)ずるや螢の岩屋乃秋の蝶(てふ)　　和州八木上田氏　勝重

すいしやうのいはやかなしむ露の玉　　天満平子　政長

蟷螂岩屋

たうらうの岩やの花やそのゝ文　　常州真壁一物氏　吉武

蟷螂の岩やの月や鎌(かま)のかゝり　　和州今井今西氏　每歴

とう蜻蛉小野とて名所なり是ハ蜻蜓ヶ瀬
なるべし蜻蛉し蜻蜓をいへり虫なれバ爰
とあやまり清明とまつるらんや
滝のうへなる山を琵琶山といふ

續千載集
のきうふのとの草葉の揺よりあつかなきりくる

土御門院御製

長嘯

○たりゐるぞりけるふ乃との元或桜木の櫻ぞ風に咲
其後の水なるる末と斎川といへり二三町の
あつて河原よそ下にて水ハまさ出なる川なれ

勢山の名に夕月や琵琶の山　江州彦根住　撫房

蜻蛉小野

夕月やかけろふのをのゝ志のひり　和州郡山　正辰

夕へまてちるやかけろふ代継桜　日野玉井氏　是望

青毎門

青門しと青かりしりせぬ水鶏かな　日下猪飼氏　多ツ

○清明の瀧より西河の瀧へ六町程あり大瀧といふ

新勅撰　延喜御門御製

代々をへて絶しとそおもふ吉野川あかりて落る瀧の白糸

源義時朝臣

新續古今

春ハ桜咲ちる花の中に落る吉野の瀧も波やそふらん

○源義経吉野山より西河へ落給ひ附宿の
あるじに給りし太刀とてありそれより世々名
を太刀屋といふ武具太刀商ふ太刀作ハ青江
国にあり

○西河乃瀧のうへなる山を證誓といふ義経
川邊の行者ひもろきの峰につきさし
まそしろひとぬきのふくよりまかく名付かり

西川のたき

巴劇

ちる花や巴のみちぞ波のまん
劇の鮎やめぐらぬ日もなき三ちら
月うけや巴の劇とぶんまわし

新高取藩氏　一淂
新今井住　道信
勢州山田古跡　伊人

○大瀧より国栖へ一里あり是清見原天皇此
所へ落させ給ふおりしも翁ども此御調を
あへしゆみ供御の料ありけるにて下されうしとりよ
ろこびたまひ君代によろこび祝ひて奏いさゝへ田舎
んとなれ又称へじ名水中にはるかなれそその
まいりきつる奴額がく御代な又おさせたまふ竟

と國栖(くず)乃うたふことゝもとゝや今はとさゝうたふらん
けにや是臭ありての翁(おきな)と國栖(くず)權正と
仍贄(にえ)を今に奉(すゝめ)まつて權正といへり

清見原天皇御製

みよし野の國栖の翁の家そ世はたゝ亂世潤(こつき)けれそ息

衣笠

○吉野國よりの國栖か節につけて酒つくる事ありし
いふへ大國(おほくに)乃翁(せうゑ)會に此翁より御(ふえ)吹人のま
いりてとらへしめして

大納言雅章

画額の落さひる點の名哉

御垣原

耳（みゝ）うときゞえしてきゝし郭公（かとゝきす）

やしきこえけや御垣のえんつい

狸（たぬき）りや花統ときりえし鞁（つゞみ）

日高田住　似柳

和刕今井森世氏　元信

和刕京平野氏　良弘

多武峯円行坊　学盛

枕案内巻之終